

## 【うれしかった言葉】

青森県の小さな小学校で、12人の5・6年生相手に行なった歌人 俵万智さんの授業が新聞で紹介されていました。「使えば使うほど増えるもの、なあんだ？」 「言葉！」 教室に「おー！」と歓声が上がりました。「言葉の力を考えましょう」と俵さんが、にっこりしました。

子供たちが作ってきた短歌を一つ一つ講評してから、俵さんは小学校時代の思い出を語り出しました。運動会でのことです。「トップで リレーのバトンを受けたのに、次々と追い抜かれて、最下位になってしまったの。でもアンカーが頑張って一位に振り返り、俵さんに声をかけに来てくれたそうです。



「有難う。おかげでヒーローになれたよ」この言葉で救われたの。本当にうれしかった。みんなが人から言われて一番うれしかった言葉は、なにかな？転校生が手を上げました。「友達になろう」落ち込んでいるときに、「大丈夫？」児童たちの顔が自然とほころびました。

「嫌だった言葉は？」「そばかすって言われて傷ついた」と男の子がうつむくと、「その傷は財産になるよ。言葉の怖さを知れば知るほど、人に温かい言葉をかけてあげられるから」と俵さんは語りかけました。

「言葉には心がこもっています。だから、体のどこかをくすぐらなくても、人を笑わせることができるし、実際に殴らなくても、人を傷つけることだってできます。それだからこそ、言葉を大切に使ってほしいのです」俵さんの心を受け止めるように、子どもたちは一言一言に聴き入っていたそうです。

## 【多数に追従せず】

「刑事裁判が市民の良識を必要としています」というポスターを見ました。いよいよ5月から裁判員制度がスタートするのです。聖書にも正しい裁判の心得が記されています。その中に「多数者に追従して正義を曲げてはならない」と

繰り返されているのが、私の心に響きました。

以前に映画「タイタニック」が話題になった時、全日本剣道連盟の機関紙に小話を取り上げられました。沈没寸前のタイタニック号から救命ボートが降ろされ、女性、子供、老人が優先的に救助されました。成人男子は海に飛び込むしかありません。

説得に当たった船長がイギリス人に向かって言いました。「貴方はジェントルマンですね」彼は黙ってうなずくと、海に飛び込みました。アメリカ人には「これで貴方はヒーローになります」と言いますと、彼は微笑みさえ浮かべて飛び込みました。ドイツ人には「これはルールルです」と言ったら、毅然として飛び込みました。さて日本人には、何と言ったのでしょうか。



「貴殿はサムライである。婦女子のために一命を賭していただきたい」すると彼は袴のすそを翻して風のように波間に消えていった——以前ならこうなるところでしょうが、今はそんな言葉は通用しそうもありません。そこで船長は彼の耳元にそっとささやきました。「皆さんがそうしておられますよ」

これを聞いて皆が爆笑するという小話なのだそうです。しかし自分の命にかかわる重大決定をするの際しても、左右を見回して周囲に合わせようとする日本人。私は何かわびしい気持ちにさせられました。しかもこの小話がアメリカ人の作だということです。

先月来日したヒラリー・クリントン国務長官が、東大で270人の学生と対話集会をしました。「私たちは貴方たちの知性を必要としています。世界に貢献できる人間になるために、知性を磨き、意見を述べ、対話すること。大切なのは周囲がなんと言おうと、人の目を気にせず自分に正直に生きること。本当にやりたいことに信念をもって当って下さい。」女子学生の一人が「彼女の言葉に、不思議なほど体の中から力が湧いてきました」と感想を述べていました。

タイタニックの小話を作ったアメリカ人も、ヒラリーさんと同じように、左右を見回すよりも、自分の信念に立って行動しようよという、親しい友人としてのエールを送ってくれていたのではないのでしょうか。

多数者に追随して悪を行なってはならない (聖書)